

入退室管理システム デイUPLUSのご紹介

パナソニック システムネットワークス株式会社
セキュリティシステム事業部

松島 裕紀



1. 入退室管理システムの市場動向

セキュリティ事故には、不注意による紛失以外でも、企業の内部犯行による機密情報、個人情報の流出が後を絶ちません。またセキュリティ事故ではありませんが、食の安全を脅かす異物混入などの内部犯行が世間を騒がせたことも記憶に新しいことと思います。また、事業主にとっては守るべきものが増え、直近では行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号、いわゆるマイナンバーを管理しなければならなくなりました。

このような社会状況において、入退室管理システムのニーズは、中小規模の企業、事業場へとその裾野を広げてきています。

入退室管理システムは、何らかの認証の結果、入室や退室を許可(一般的に電気錠や自動ドアを解錠)します。認証方式には、キー入力、磁気カード、非接触ICカード、生体認証などがありますが、コスト面(カードの消耗を含む)や抑止力(カードホルダーやストラップなどによりICカードの携帯を見えるようにする)などの面で非接触ICカードを使った認証が主流になっていると考えられます。

さらに高いセキュリティが求められる場合には、生体認証や映像監視システムとの併用が行われます。

2. 入退室管理システム導入の目的・意義

入退室管理システムを含むセキュリティシステムを導入する目的は、次のようなことが考えられます。

- ・企業、ブランド、機関の信用を守る。
- ・事業の競争力を守る。
- ・お客様への安心を提供する。

企業から見たお客様の個人情報などの流出は、お客様からだけでなく社会からその企業、ブランド、機関の信用を失ってしまいます。仮にセキュリティ事故が発生した場合でも、無対策の状況で発生した場合は、事実関係の把握にも手間取り、事後対策でも更に信用を失いかねません。

機密情報が漏洩し、競合他社や他国との競争に不利となることを防ぐには、機密情報へのアクセス制限を厳密に行う必要があります。入退室管理システムは、物理的なアクセス制限を行うことの対策になります。

病院、テナントビル、データセンター、コールセンターなどへの入退室管理システムの導入は、施設の利用者に安心を提供する側面もあると考えられます。この場合、利便性をできるだけ損なわないことも重視される場合があります。

3. お客様の要望

入退室管理システムの導入目的・意義は様々なのでお客様のご要望も多岐にわたります。基本的なところは入退室(入退館)の制限、入退室履歴の記録、警備の省力化(遠隔・一箇所での監視)などになります。

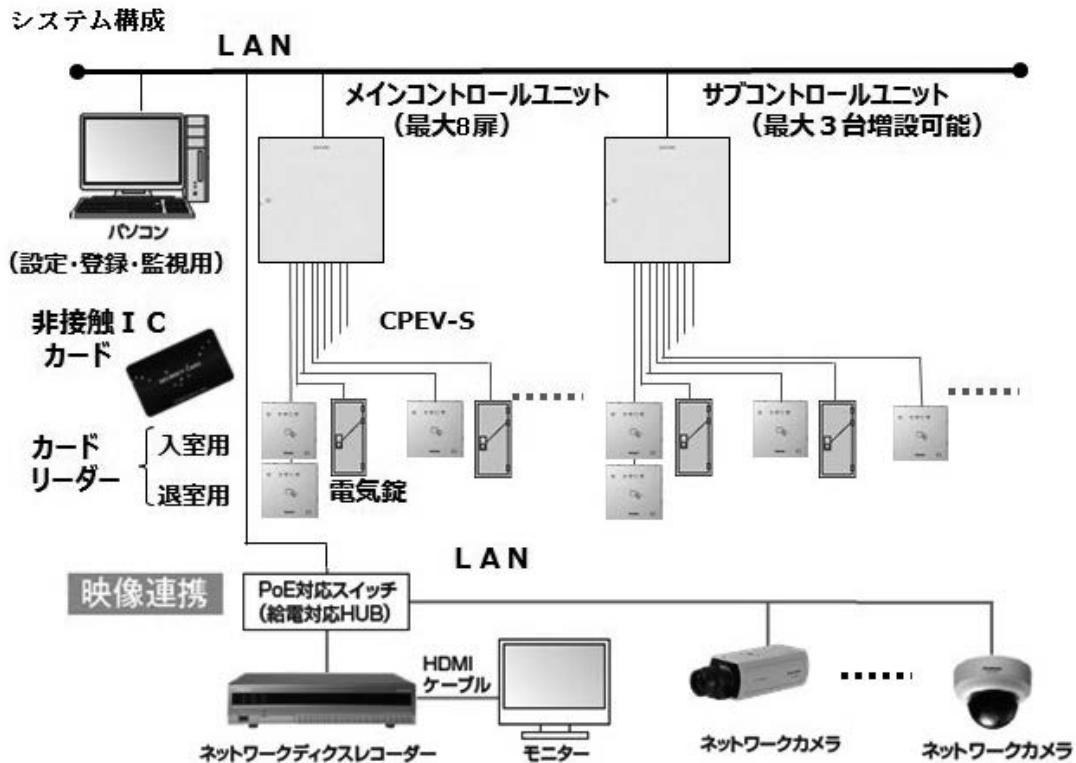
その他、入退室管理と映像監視システムを連動させることでよりセキュリティを強化したい、入退室の履歴と就労の記録とを合わせて労務管理に利用したいといったことやインターホンや機械警備システムと連動させたいなど色々なご要望を頂きます。

ただ、セキュリティ性の高さを対外にアピールするような場合を除き、できれば費用はかけたくないのが本音かと思います。したがって導入・運用コストを出来るだけ低く抑えたいことが最も多いご要望かと思います。

4. 入退室管理システム デイリPLUSの特徴

今回ご紹介させて頂くデイリPLUSは、人の出入り(デイリ)をコントロールし、入退室履歴と録画されたカメラ映像の確認を簡単に実現することで事件・事故への対策向上を図ります。

また、中小規模向けの入退室管理システムでありながら、大規模システム並みの豊富な機能を装備しつつも、施工性を向上させることで導入コストの削減を実現しました。以下にその特徴を8つばかりご紹介させて頂きます。



① 映像連携機能

弊社の映像監視システムi-PROと連携し、デイリPLUSの入退室(カード認証)履歴や警報履歴から録画映像をワン・クリックで再生できる機能を標準搭載しました。この機能は以前より上位機種ではオプション機能として提供していましたが、デイリPLUSでは簡単な施工・設定で運用できることで、導入(施工)コストの低減が期待できます。

映像監視システムで特定の人や特定の警報の録画映像を検索することは、手間が掛かりますが、入退室管理システムの履歴を検索することは容易です。

履歴検索・表示を行います。					
印刷 検索条件非表示					
No	発生時刻	カメラ	履歴種別	操作元	
00001	2015/01/05 14:22:26	映像	端末操作記録		(0101010001)扉1
00002	2015/01/05 14:12:33	映像	画面操作記録	ADMIN	(0101010001)扉1
00003	2015/01/05 14:12:33	映像	画面操作記録	ADMIN	(0101010001)扉1

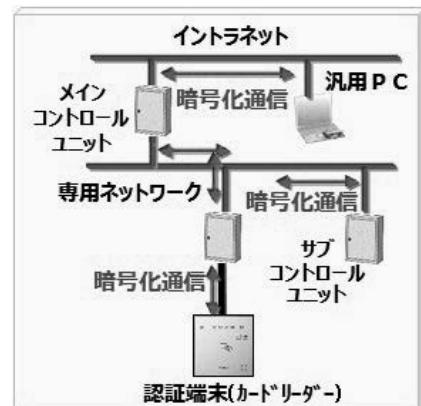
映像の検索に入退室管理システムの履歴を活用することにより目的の映像を効率よく確認できます。また、入退室管理システムの履歴では、「いつ」「誰が」「どこを」入室(退室)したかという情報しかありませんが、そのときの映像を再生することにより「どのような格好(何かを持ってなど)」「誰かと一緒に(共連れ)」「本当に入室(退室)したか」の情報も含めて確認することが可能になります。



②専用ソフトウェア不要

デイリPLUSの各種データの表示や設定変更は、ウェブブラウザ（Internet Explorer）により、メインコントロールユニットにアクセスして行います。したがって専用のソフトウェアを購入頂くことはありません。前述の録画映像の再生の機能も、メインコントロールユニットからのソフトダウンロードでできるようになっています。

また、デイリPLUSでは、システムの各階層の通信を暗号化しておりシステム自身のセキュリティも高く、安心してお使い頂けるようにしています。



③かんたん施工

中小規模の入退室管理システムの導入では、一段とコストパフォーマンスを求められます。高機能でありながら導入コストを下げるためデイリPLUSでは、多くのお客様が求める共通項目に機能を絞り込み、施工ならびに運用設定を容易にしました。

特にお客様の要望に応じてシステム構築を行う施工面について、ウィザード形式の画面に従って入力・選択をしていくことで施工に関する設定を漏れることなく行えるように工夫しました。これにより特別なSE作業コストも必要としません。

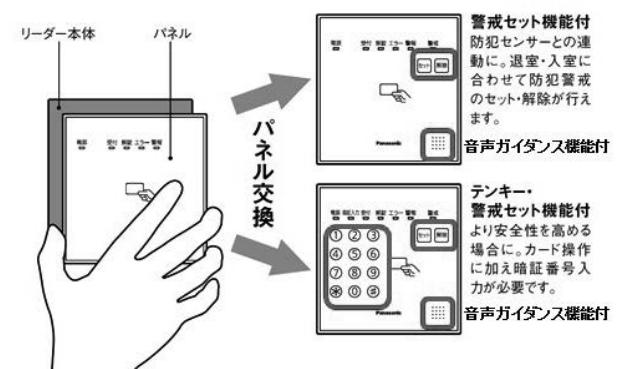
④スクエアスマートカードリーダー

デイリPLUSのカードリーダーは小型（縦120mm、幅116mm）だけでなく、壁に埋め込んだ場合の壁からの突出の厚みが10mm、埋め込み部分が20mmとなっており、パーティションへも綺麗に埋め込める仕様になっています。

また、このサイズで音声ガイダンス機能を搭載しており、例えば最終退室（警戒セット）操作時に戸締りが出来ていないうちに「扉を確認してください」など音声で対応の指示を行ってくれます。

スクエアスマートリーダーの最大の特徴は、パネルが交換できることにあります。テンキーが無いタイプのスクエアスマートリーダーを導入頂いても、後からセキュリティ強化のため、テンキー付き（カードを駆けた後、暗証番号による確認が必要とする認証が出来る）タイプに変更したい場合があります。デイリPLUSでは、本体はそのまま使用でき、パネルの交換だけで済みます。機器代としてはパネル代だけになるため安価にセキュリティ強化が行えます。

本体を交換しないため、運用を止めず、平日の日中にでも工事ができるためお客様の立ち会いの負担を軽減できるだけでなく、工事コストの削減も可能になります。



⑤カード登録

カード毎の通行権限・有効期間の登録やメンテナンスは、入退室管理システムのランニングコストの大半を占めます。デイリPLUSでは、5つのカード登録方法と未使用カード検索機能によりサポートします。

カード登録の方法としては、1枚ずつ画面から登録、連番登録（弊社セキュリティカードに限る）、CSVファイルからの一括登録、登録済みカードの権限コピー、未登録エラーの入退室履歴からのカード登録（カードのID・種類の情報を取得してカード登録を行う）の5通りのカード登録方法を用意しました。特に未登録エラーの入退室履歴からのカード登録方法によりIDの入力ミスを防ぎ、カード登録を容易に行えるようになりました。従来この作業を行うために必要であった専用のカード読み取り機が不要になったことも、導入コストの削減に寄与しています。

また、長期間カード操作を行っていない登録カードを検索する機能があり、カードの棚卸しを効率よくできるようになっています。

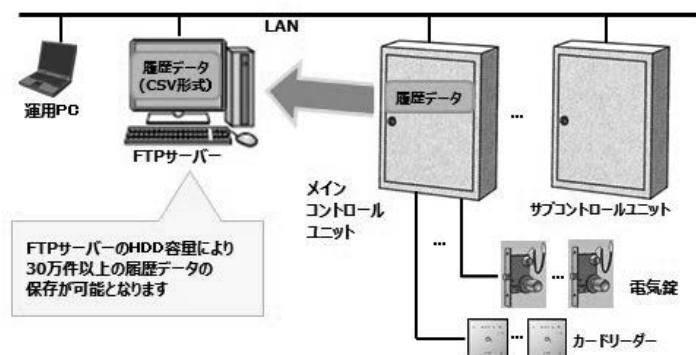
⑥履歴自動バックアップ

入退室の履歴の保持件数は、導入システムを検討する上で重要な項目になります。多くの履歴を保持するシステムは、グレードが上がり導入コストも高くなります。

入退室により発生する履歴の数は、「人数」×「扉の数」×「何回通行するか」が目安になります。一般的に、登録可能なカード枚数と管理できる扉数に比例して入退室システムが保持できる履歴数は多くなります。しかし「何回通行するか」という項目は、トイレ、喫煙室、休憩室、給湯室、会議室などがセキュリティを掛ける扉の内側にあるか外側にあるかで1桁違ってくることがあります。

デイリPLUSでは、30万件の履歴をメインコントロールユニットに保持しますが、お客様によってはこれでは不十分ということがあります。そこで、前日分の履歴を自動的にCSVファイルとして出力する機能を標準で搭載しています。これによりデイリPLUSの履歴保持数30万件の制限を外すことが可能になります。(出力先のお客様のパソコンのハードディスク容量に依存します)

このCSVファイルを処理することにより勤怠管理を行う事も可能になります。



⑦連動機能

デイリPLUSは、4つの連動機能により他の設備・システムとの連携を図ることができます。

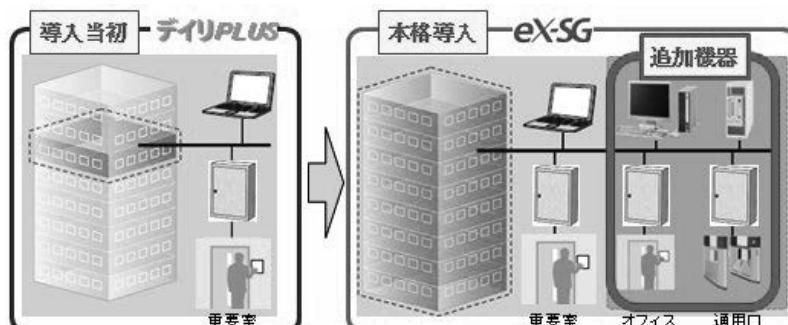
自動火災報知機からの火災信号を受け電気錠を解錠するパニックオープン機能、防犯・設備・システム警報が発生した場合に接点出力をを行う代表警報出力機能、複数扉を有する部屋の警戒セット／解除操作を連動させる警戒連動機能があります。

さらに、カード認証の結果、扉の運用や電気錠の状態の変化、他設備からの入力の変化などをトリガーに、施錠・解錠制御や警戒セット・解除の変更などを自動で行う連動機能が標準機能として搭載されています。

⑧システムの拡張性

デイリPLUSは、管理サーバー、セキュリティ監視装置、コントロールユニットなどを増設することで、上位機種であるeX-SGに拡張することができます。

その際、デイリPLUSのコントロールユニットやスクエアスマートリーダーを使用することができます。したがって無駄なく上位機種への移行が可能になっています。将来のシステム拡張におけるコスト低減にも寄与できるシステムになっています。



5. 製品概要

■システム仕様

項目	仕様
扉(ゲート)数	最大32扉(ゲート)
カード種類	EKA3851:非接触ICカード(FeliCaタイプ) [パナソニック製標準カード] または楽天Edyカード 注:FeliCa仕様のお客様カードについては別途ご相談ください
履歴管理件数	最大 30万件
登録ID数	最大 8,000ID

■機能仕様

分類	機能
制御	電気錠施解錠、接点出力、警戒セット/解除、入退室認証モード、警報復旧、パソコンからの制御、スケジュール制御、連動制御、火災時解錠制御、警戒連動制御
監視	施解錠状態、扉開閉状態、接点信号入力状態、在室状態、施解錠異常、扉開放異常、侵入警報、不良警戒セット警報、扉こじ開け警報、ユニットタンパ異常、ユニット通信異常、カードリーダー通信異常
表示	一覧表示、管理点別詳細表示、警報区分別のブザー鳴動・アイコン明滅表示
履歴	状態履歴、警報履歴、カード操作履歴、画面操作履歴、システム履歴、警報履歴、カード操作履歴からの録画映像再生
入退室認証	カードID認証、テンキーID認証、ID+暗証番号認証、扉別暗証番号認証、扉別権限設定、扉別時間帯制御、有効期限、アンチパスバック、グローバルアンチパスバック、紛失指定、ツーパーソンルール
カード登録管理	単数登録、専用FeliCa連番登録、一括編集・削除、未使用カード検索、未登録操作履歴からの登録、CSVファイル取込による一括登録・編集・削除

■商標注記

- ・Internet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ・FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
- ・楽天Edyは、楽天Edy株式会社が管理するプリペイド型の電子マネーサービスのブランドです。

【お問い合わせ先】

パナソニックシステムネットワークス株式会社 セキュリティシステム事業部
 グローバルマーケティング部 国内エリア課
 電話 050-3380-2199
 URL <http://panasonic.biz/security/acc/deiriplus/>